

平成 25 年 5 月 8 日

南の風 36

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

お久しぶりです。各連盟では、横浜市春季大会予選が始まりました。1年間熱い戦いが続くことと思いますが、指導者並びに保護者の皆様、子どもたちのためにどうぞよろしくお願い致します。

さて、今回は最近読んだ本、遠越 段さんの《人を動かす！安西先生の言葉「スラムダンク」に学んで成功しよう！ANZA! COACHING『総合法令出版』（以下安西先生の言葉）》コーチングの在り方について書いてみます。

皆さんも「スラムダンク」を読んで、いろいろ影響を受けたことがあると思います。安西先生の言葉はもちろんのこと、桜木花道、赤木剛憲、流川楓、三井寿、宮城リョータ、木暮公延、そして赤木晴子たちの言動からも触発されたことがあったのではないのでしょうか。

遠越さんは、コーチングの4つの原理・原則を挙げています。（以下安西先生の言葉から引用）

1 コーチングとは人としてよく生きること、人と自分の幸せを実現していくこと

生きるとは、自己実現をめざし、自己重要感を満たし、人を育て、組織、チーム、仲間を生かして喜びを感じていくことである。自らを育て、自らが育ちそして他人を育て、他人が幸せになることで自分も大きくなる。この善の循環がコーチングである。つまり、自分とまわりのよく生きる力を発揮させてくれるのがコーチングである。

2 コーチングとは、人が自らを成長させることを愛を持って観察し、認め、支えてあげることである。

コーチングというのは、あくまで相手のことを認め、その人の人生を自分のものとしてどうしていくのかを愛を持って見守ってやることである。だから指導する側は、情熱を胸の中に秘めながらも、自分を抑制させておく力が必要である。出発点は、まずその人自身におかなくてはならないのである。

3 組織、チームのそもそもの存在目的は、人を幸福にするためであることをいつも忘れない。

本来、自由を求める人間が、組織、チームをつくるのは、そうしてはじめて自己実現、自己成長できるからだ。名将、コーチングに優れた人は、組織、チームの向上、成功と、選手・メンバーの自己実現、人間的成長に向けた向上心をうまく合致させていく人である。

4 最強、最高のコーチング力は、最終的には、誠実さをはじめとするその人の人格力（徳の大きさ）をいかに高められるかで決まる。

人は、自分を認めてくれて、思いのままに力を発揮させてくれる人の下にいるとき、最高の能力を発揮し、大きな成長をとげていく。その強さは、自分を認めてくれる人の人格力、徳の大きさに比例する。

我々がコーチングをする際に、大変示唆に富んだ言葉だと思います。コーチングについては、次号でも引き続き触れてみたいと思います。